

研修テーマ

きいて かんじて つながろう

～思いや意図をもち、生き生きと表現する子どもの育成～

1. 日時と会場 平成30年6月6日（水）湯梨浜町立東郷小学校
2. 講師 武蔵野ジュニア合唱団「風」指導者 前田 美子先生
3. 研修内容

全国各地でご活躍の前田先生のもと、教科書教材や今月の歌を使っての歌唱指導の方法を学んだ。午前中は3年生、4年生の指導をして頂いた。

3年生「いつでもあの海は」の学習では、準備運動「鉄腕アトム」の肩たたきで「♪ランランララン」と歌うと柔らかい歌声づくりにつながると教えて頂いた。学校現場では「1、2、3」の掛け声とともにこの曲に合わせて準備運動を行うことが通常だが、その方法にとらわれず、本時の目的に合った準備運動を適宜行うことの大切さを教えて頂いた。

6年生「星空はいつも」の学習では、4拍目から始まる旋律の流れを体で感じ取るために、「1、2、3、星空は・・・。」と、指揮の動きを真似ながら歌う方法を指導をして頂いた。これにより、児童は歌い出しの感覚をつかむことができた。また、フレーズごとに一人で歌うことで、曲のまとまりを意識し、ブレスをする場所が指定されている意味を理解することができた。

午後の授業研究会の中では、息をしっかりと使って歌うために、まず言葉にとらわれず単音で発音しながら歌いフレーズをつかませる方法や、曲の山に向かって息を使い切りながら歌わせる方法について実践していただいた。その後の指導講評の中では、曲の中で使われている演奏記号の意味を一律単純に捉えるのではなく、歌詞や曲の構成との関わりからその意味を考えると、作曲者が曲に込めた思いや工夫をくむことができ、また曲の良さや楽しさを子どもたちと共有できると教えて頂いた。さらに、各学年に合った楽しい曲や児童の意欲を喚起するような曲を紹介いただいたことも、今後の指導のために大変良かった。

この研修を通して、その曲の持つ良さを生かしながら演奏するために、指導者が適切な問いかけを行ったり、作曲者の意図や仕掛けに気付かせるような手立てを行ったりすることが大切であることを学んだ。また、音楽の学習を通して子どもをどう育てたいのかという目的を明確にもち指導に当たることの大切さや、教師が「～しなさい」と指示するのではなく、活動を通して子どもたちに気づかせたり表現させたりすることが、子どもたちの主体的な学びと育ちにつながることを学んだ。

